富山市科学博物館
TOYAMA SCIENCE MUSEUM

No. 509

２０２０年８月

シャルル・メシエとメシエ天体

星や宇宙に関する本には、太陽、月、木星や土星といった惑星、星団、星雲、銀河など、とても美しい天体の写真が載っています。そんな天体の紹介を見ていると、天体の名前にアルファベットと数字で書かれているものがあることに気づきます。例えば、夏から秋にかけて見ごろになるアンドロメダ銀河（図 1）には、M31 とも書かれます。この「M」と数字は、いったい何を意味しているのでしょうか？

図１：富山市天文台で撮影したアンドロメダ銀河

「M」は、今からおよそ 200 年前のフランスの天文学者、シャルル・メシエ(1730～1817年)（図 2）の頭文字からきています。彼は、彗星探しに没頭した研究者でした。彗星は、長い尾をもつ天体（図３）で、その本体は主に氷や塵などでできており、汚れた雪だるまとも表現されます。太陽に近づくと、太陽の熱で氷が溶けて蒸発し、塵やガスなどが尾っぽのように伸びます。メシエは、生きている間に 13個もの彗星を発見しました。当時のフランス国王ルイ 15世は、彼を「彗星の狩人」と呼んだそうです。

図２：シャルル・メシエの肖像画

メシエが彗星を探すためにおこなったのが、似たように見えるけれども彗星ではない天体の位置を調べることでした。彼が生きていた時代には、今のような高性能な望遠鏡がなかったので、淡くぼんやりとしか見えない彗星と、星雲や星団といった天体との区別がつきにくかったのです。そこでメシエは、彗星を探す上で間違えそうな天体の位置を記録し、番号を付けてまとめました。それが、メシエカタログです。カタログに載っている天体は、メシエ天体と呼ばれ、メシエの頭文字の「M」と番号で表します。

図３：1996 年の百武彗星

メシエ天体の中には、図鑑に載っている有名な「すばる（M45）」や「オリオン大星雲（M42）」も含まれています。富山市科学博物館のホームページ（QR コード）では、富山市天文台で撮影したメシエ天体の写真を公開しています。どんな天体があるのか気になる方は、ぜひ見てみてくださいね。

当館ウェブサイト

（近藤　秀作）

今月のかがくのギモン：天体のカタログにはどんなものがありますか？
（答えは、当館ホームページを見てください）